

三井のリフォーム住生活研究所 所長 西田 恭子

## 新宿のまちづくり

春雨が降るあいにくの土曜日の午後、北新宿地区再開発見学会のため、成子坂を訪れた。再開発に先駆けてきた西新宿三井ビルがあり、その向かい側の二つの複合ビルが、もうすぐ竣工を迎える。

日頃はあまり訪れなかったこの地であるが、考えてみるとJR新宿駅から九分、西新宿駅から三分の好立地である。地権者が多く、開発計画は大変だったのではないかと思いつながら、設計者の説明を聞いた。この地には「成子天神」があり、新宿にオフィスがある私は、天神様に思わず「商売繁盛。家内安全」と唱えていた。

この神社の大木の緑を残しながら、四、〇〇〇平方メートルの広場に新たに植樹された木々を運動させる努力がなされている。さらにその緑を一、五〇〇平方メートル超のランドエントランスの天井に反射させ、緑を室内に取り込む手法が取られている。

また、災害時の対策が外構部分に多く取り入れられ、震災時には仮トイレとなるマンホールの設置、防

災広場には釜戸に変身する釜戸ベンチ、外時計などが設置され、安全で機能的な動線計画を実現していた。

私のオフィスは、高層ビルの四七階にある。このオフィスビルの55広場は、イベントやオープンカフェに恒久的に活用されている。新築時から年に一度、テナント会社対抗のど自慢大会が広場で盛大に行われるなど、働いていてなかなか楽しいビルだ。

東日本大震災の日、電車が動かず帰宅できない女性が多かったので、共に夜を明かす事にしたのが、近くの京王プラザホテルや、東京都庁舎、工学院大学のロビーにも多くの人が帰宅難民となっていた。工学院大学は一階のホールに床暖房があり、毛布の支給も行われ、多くの一般の方々に開放されたと聞く。

話を北新宿地区の見学会に戻そう。見学会の途中で、参加者から「あらあー」という声が上がった。四三階を見学中にいつの間にか雨がやみ、大きな虹が空いっぱいに架かっていたのだ。

震災後の省エネで、ビル照明や空調方式に見学会で

の話が集中していたが、ふっと目に入ったビルとビルを股にかけた大きな虹は、一時の清涼剤のように新鮮に感じられた。建築という人による創作物と自然の創作物が一体となった瞬間のように思えた。全員が窓に集まり、言葉もなく見入っていた。

見学後は、大学の建築学部まちづくり学科の先生から、「西新宿の再生」と題した講演をお聞きした。新宿は当初の予想を大きく外れ、昼と夜の人口差が大きい商業都市となり、車の量と人の動線バランスなど、まだまだ未解決部分もあるようだが、今後も街路や広場などの公共空間を、より快適で魅力的な空間へと再整備する検討がなされている。

平成三年に東京二三区で最も早く「新宿区景観まちづくり条例」を制定した新宿区は、「歩く人にやわらかな都心景観をつくる」をテーマに景観形成をすすめてきた。

今回の見学会は、都市の抱える問題と再開発の意味を知り、都市デザインを考えるよい機会となった。



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手かけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。